

KODAK
LICENSED PRODUCT

M

T

U

KODAK Gray Scale



二上

前陰之部 陰門	皮膚之部 附 筋骨	脚弱 手足雜症	轉筋 亂	手足之部 手足痛	腰之部 腰痛類	脇痛 腋臭	腹脇之部 腹痛	痰心痛 胸痺	冷心痛 心痛	心胸之部 心痛	卷之二上
陰囊		鶴膝風		脚氣			腹脹	心胸雜症	蟲心痛	熱心痛	

ヤ 9
1064
3



1064
3

普救類方卷之二上



心胸部

胸痛

林良適

丹羽正伯

纂輯

胸

蛤蚧粉を白くかり程炒く香附子等分粉く白湯小掬

中せ用也 本草綱目

又方綠豆二十一粒胡椒十四粒同トく研粉中白湯中用也

又方蓼根根根酒小掬一飲く同

又方生薑二三合搗け炒熱一須小つ痛不て耐也

一冷心久熱也同

又方伏龍肝を粉く一冷心痛中はほりて用也熱心痛小水

く同

普救類方 卷之二上



91-1811

又方胡椒四十九粒乳香一匁粉を男子は生薑湯に同
又方女子は當歸酒に煮て煎じて用す同
又方雞子一つを破り醋で合じ攪きせて火を少くけりちきこ
すこ飲す同傳信尤易方

又方延胡索酒粉を同の肘後備急方
又方枳實桂等分粉を陳皮酒湯に同

熱心痛

熱い心の痛い胸の中に熱いいたむこ
大かるの拖子七つ炒焦して水二合すて煎じて藥ト七分めに
煮つめ生薑汁を少づづこと用す本草綱目
又方生健一握をのこと用す同
又方青黛一匁生薑汁を用す同
又方金睛星の末を童子に熱を小便しれ飲す同泉妙方

冷心痛

好いく冷心の痛い胸の中に冷いいたむこ
布で山椒をつて痛本のこを火で煎じて用す同
又方胡椒二十一粒酒を合じて煎じて用す同
又方吳茱萸合じて煎じて用す同
又方山椒二十粒酒を合じて煎じて用す同
又方水ゆく飲す同救急易方

老人の冷い心の痛い胸の中に冷いいたむこ
紫菴子と合じて煎じて用す同
腹を合じて煎じて用す同傳信尤易方

卒心痛

卒心痛、さくらさくらむ

粳米一合小水三合の米煮く七度ほど沸して汁を飲本草綱目

又方桃仁七粒皮と炙り成り研らる水を加えて飲して同

又方苦参二五醋天目一盃入すから煮つめ用同

又方粉十石と焼く陳壁土二五白炭二五粉一蜜して炒り

丸ド艾葉の葉湯中く用同

又方黄連を炙りて法煎し飲く肘後備急方

又方沸湯一升の中へ塩一合入れらるを飲べ同

又方醋の内へ麴子一ツお破りいさかたませ飲る或ハ酒乃

内へ入れ用く同

又方桂心皮はらり粉して二五酒して用ハ腹痛も用同

急小心痛いさくらさくらむ

年成ゆら葱の白根五莖皮を炙りて法煎し飲く或ハ酒乃

又方良姜山梔子爵金等分醋して煎ド用同

又方五靈脂蒲黄等分千金簡易方

又方沸湯一升の中へ塩一合入れらるを飲べ同

又方粉十石と焼く陳壁土二五白炭二五粉一蜜して炒り

丸ド艾葉の葉湯中く用同

又方黄連を炙りて法煎し飲く肘後備急方

又方沸湯一升の中へ塩一合入れらるを飲べ同

又方粉十石と焼く陳壁土二五白炭二五粉一蜜して炒り

丸ド艾葉の葉湯中く用同

又方黄連を炙りて法煎し飲く肘後備急方

又方沸湯一升の中へ塩一合入れらるを飲べ同

後小用くより同

又方慈蔴根大豆一粒ほど水ふかきませ飲てより 肘後備急方

又方葱芯の根水うそ使薬ト合お小多くのことより 千金簡易方

又方鶴虱一ふむし粉ふかきませ空服ふのこくより同

又方極子は十九粒皮はより月れ上旬に七粒づ毎日夜合

もぶし七日合し一せせとまけいこ水く金一より同

又方苦棟子れ葉まら附を根皮わり白皮をゆる乾しおき

月より時よりて粉は七分酒にて用ひ感い七粒皮をよりてあ

用るより同

痰心痛

痰心痛

櫻の根水ふかきし用より 本草綱目

又方陳皮うそとせせとまけいこ水く金一より同

又方枳實瓜粉より一と一と湯より用ひ見れと夜用てより同

又方烏梅一つ枣一つ杏仁七つ同より搗粉より男小酒女

ゆは酢より用ひ同

又方枳椇根穀うごんの粉小むさせ炒中夏桔梗等分粉は

蜜姜けりて粉り胡椒のえとん九ト六十粒づ姜湯にて合後

小のこより 得効方 半夏の年製法の不あり

澄痰と胸いよ

小螺蚌の殻を練るを焼粉より一と酒より用ひ 本草綱目

又方半夏を炒粉より粉糊より粉り緑豆れえとん九ト二十

粒づ姜湯めて用ひ同 半夏の年製法の不あり

胸痺

胸中かく痛くも何れも後よりより一と酒より用ひ 肘後胸痺也

り大塊思慮多かりおる病かる

本草綱目

薤根を水とて蒸すのそとより本草綱目

又方根実代粉生薬のひょうりひょうり一湯肘後備急方

又方大芥子生薬のひょうりひょうり一枚薤白ひょうりひょうり八十五酒一升八合とて蒸す五

合小葱ひょうりひょうりの根ひょうりひょうりより或半量ひょうりひょうりを加用ひょうりひょうり同半量のひょうりひょうりの

心胸雜症

胸背相逆ひょうりひょうりトいひひ

栝楼ひょうりひょうりを炒研ひょうりひょうりとら栝楼おいせ丸ト三十粒なり

飯ひょうりひょうりのそり湯ひょうりひょうりめいく丸也本草綱目

胸ひょうりひょうりのあみあみひょうりひょうり吐ひょうりひょうり心下ひょうりひょうりに積聚ひょうりひょうりあり

乾漆ひょうりひょうりを炒ひょうりひょうり燻ひょうりひょうり代ひょうりひょうりいた丸粉ひょうりひょうりト醋糊とく丸ト熱酒或は

湯ひょうりひょうりに醋ひょうりひょうり代ひょうりひょうりして飲ひょうりひょうり下丸ト千金簡易方

又六白ひょうりひょうり七分澤瀉ひょうりひょうり一分千金簡易方

治ひょうりひょうり熱ひょうりひょうりトつのひょうりひょうりといふ傳信丸易方

胸中ひょうりひょうりはいむひょうりひょうりといふひょうりひょうりがいぶひょうりひょうりといふひょうりひょうりから痰ひょうりひょうり結ひょうりひょうり熱ひょうりひょうり結ひょうりひょうりをいふト

生姜ひょうりひょうり代ひょうりひょうり搗ひょうりひょうりといふ丸粉ひょうりひょうりト熱酒或は千金簡易方

婦人ひょうりひょうり血ひょうりひょうり氣ひょうりひょうりせいめひょうりひょうりのひょうりひょうりり胸にひょうりひょうりみえぐトなト

薤ひょうりひょうりの根をいた丸粉ひょうりひょうりト酒にひょうりひょうりひいといふトをいふトのひょうりひょうりといふト同

腹脇ひょうりひょうり之部

腹痛

腹ひょうりひょうりのひょうりひょうり

生姜ひょうりひょうり代ひょうりひょうり小葱ひょうりひょうりといふ丸粉ひょうりひょうりト熱酒或は千金簡易方

又方良姜ひょうりひょうり香附子ひょうりひょうり各ひょうりひょうり別ひょうりひょうり小粉ひょうりひょうりト用るト付ひょうりひょうり各ひょうりひょうりといふ丸粉ひょうりひょうりト熱酒或は千金簡易方

また一度も七分程づつ飯の湯に生薑ちやうあめけをきり用ては煎じ方

又方胡椒こしょう飯より粉こなし酒さけにて煮ゆべし飲のべし同

又方神麴かむろの粉こな飯いつゝ酒さけめくのもよく得効方

又方乾姜かんしょう艾葉あいう等ら分ぶん粉こなし蜜みつにて炒あぶり胡椒こしょうの末すいに丸まるす

二三十粒りゅうづつ酒さけにて用もち千金方

急いそに腹はらいむ

病人びやうにんの腹はら脹はらふ三十筋すうしんより焼粉やきこなし酒さけにて用もち并なみ芥子かいしを粉こなし

水みづにて炒あぶり豚とんの中なか小貼せうていべし病人びやうにん汗あせ不出いて痛いたむむ

本草綱目

又方乾姜かんしょう飯い粉こなめし酒さけにて用もち肘後備急方

又方糴米じやくまい二合にがうあり六合ろくがうの煮ゆて十じゅう分ぶんなりど沸ゆての湯ゆにて用もち

又方塩しほ飯いあり六ろく分ぶんなりど飲の吐はきをぬき酒さけにて用もち

又方米粉こめこな一合いちがう水みづ二合にがう乃すなはち内うちへいり酒さけかきませの湯ゆにて用もち

附子ぶし一枚いちまい炮ひょうし

附子ぶし一枚いちまい炮ひょうし入いる茶ちや候う一いち盃はい入いるか

小せうおお蜜みつ少せう入いる酒さけにて用もち治法ちほう重じゆう

心こころ腹はらいむ

良姜りやうきやうをこきぎ炒あぶり粉こなめし酒さけにて用もち肘後備急方

用もち

又方烏梅くわまい十四じゅうし水みづ一升いっしやう二合にがう半はんして煮ゆ沸ゆてて紙し十じゅう文ぶんいれ

煮ゆて六ろく合がうに煎せんじはめい酒さけにて用もち衛生易簡方

冷ひや後ごいむ

山椒さんせうを布ぬのにつつて痛いたむの上うへにおおき火ひ耐たれし酒さけにて用もち山椒さんせう

山椒さんせうを布ぬのにつつて痛いたむの上うへにおおき火ひ耐たれし酒さけにて用もち山椒さんせう

又方山椒さんせうを炒あぶり汗あせかき酒さけの中なかに丸まるす酒さけ飲のては同

又方吳茱萸ごしゆいゆを合あり水みづ三合さんがういし沸ゆて用もち同

又方艾葉灰粉と一と二と五と越陽と一と月也同

枳椇一文分良姜一文分陳米百粒水煮て飲し用也本草綱目

又方五靈脂枳椇等分粉し石菖蒲を煮て飲し用也同

心腹冷い身み清りかた吐はく同

胡椒を研み酒にかき飲し用也同

又方石菖蒲の根皮杵き末に吳茱萸を同じく水煮て飲し用也同

一と飲し用也同

又方石菖蒲の根皮杵き末に吳茱萸を同じく水煮て飲し用也同

一と飲し用也同

用也同

心下いふむし

赤白身を燒き粉し一と二と五と越陽と一と月也同

本草綱目

又方胡椒半九粒綠豆半九粒研つ酒にかき飲し用也同

又方當歸を粉し一と一と酒にかき飲し用也同

小腹いふむびがまり

莢を研み粉し一と一と酒にかき飲し用也同

又方芥子粉を蜜煮て粉し七粒酒にかき飲し用也同

又方木瓜二文分桑葉二枚水天目二盞半盞

小腹いふむびがまり同

又方苦參二文分天目二盞一盞小腹いふむびがまり同

腹中いふむびがまり同

小腹いふむびがまり同

腹中いふむびがまり同

野狸骨を炙り粉し一と一と酒にかき飲し用也同

腹中いふむびがまり同

白鶴の尾代焼粉（本草綱目） 小兒の吐下を止む

又方蕪荑仁（本草綱目） 代粉（本草綱目） 小兒の吐下を止む 粉を煮く（本草綱目） 二々

づ飯のすり湯（本草綱目） 月引 衛生易簡方

食傷（本草綱目） 心後（本草綱目） 腹（本草綱目） 脹（本草綱目） 小兒の吐下を止む

塩（本草綱目） 又合（本草綱目） 一升（本草綱目） して（本草綱目） 煎（本草綱目） して（本草綱目） 飲（本草綱目） べし 合（本草綱目） 飯（本草綱目） 吐（本草綱目） 下（本草綱目） 止（本草綱目） む

かん（本草綱目） 時後備急方

虚忘（本草綱目） の後（本草綱目） のい（本草綱目） ごと（本草綱目） に

茵陳（本草綱目） 又（本草綱目） 桂心（本草綱目） 三分（本草綱目） 五厘（本草綱目） 芍薬（本草綱目） 七分（本草綱目） 又（本草綱目） 水茶（本草綱目） 碗（本草綱目） 二盃半（本草綱目） とい（本草綱目） じ

姜（本草綱目） 三片（本草綱目） 束（本草綱目） 二つ（本草綱目） 入（本草綱目） 煎（本草綱目） して（本草綱目） 飲（本草綱目） べし 得効方

婦人血（本草綱目） 氣（本草綱目） 不（本草綱目） 調（本草綱目） 心後（本草綱目） 小兒の吐下を止む

荔枝核（本草綱目） を（本草綱目） 焼（本草綱目） ぬ（本草綱目） 香附子（本草綱目） 十文（本草綱目） 炒（本草綱目） 同（本草綱目） 小兒の吐下を止む

塩湯（本草綱目） として（本草綱目） 月引（本草綱目） 又（本草綱目） 飯（本草綱目） のすり湯（本草綱目） ぬ（本草綱目） とも（本草綱目） 用（本草綱目） べし 本草綱目

又（本草綱目） 薑（本草綱目） 薑子（本草綱目） 炒（本草綱目） 十文（本草綱目） 良姜（本草綱目） 五文（本草綱目） 粉（本草綱目） 醋糊（本草綱目） して（本草綱目） 粘（本草綱目） り

大豆（本草綱目） の大（本草綱目） さ（本草綱目） に（本草綱目） 丸（本草綱目） ド（本草綱目） 十粒（本草綱目） づ（本草綱目） 湯（本草綱目） 醋（本草綱目） を（本草綱目） 煮（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 同

又方（本草綱目） 雄黄（本草綱目） 二十文（本草綱目） 粉（本草綱目） 醋（本草綱目） 二合（本草綱目） を（本草綱目） 煮（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 右の粉（本草綱目） 状

細（本草綱目） り（本草綱目） 小豆（本草綱目） の大（本草綱目） さ（本草綱目） に（本草綱目） 丸（本草綱目） ド（本草綱目） 三十粒（本草綱目） 湯（本草綱目） 醋（本草綱目） を（本草綱目） 煮（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 同

又方（本草綱目） 羌活（本草綱目） 醋（本草綱目） 煮（本草綱目） 乾（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 又（本草綱目） 延胡索（本草綱目） 十文（本草綱目） 粉（本草綱目） 煮（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 同

當歸（本草綱目） を（本草綱目） 酒（本草綱目） 煮（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 同

又方（本草綱目） 延胡索（本草綱目） 皮（本草綱目） を（本草綱目） 煮（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 又（本草綱目） 醋（本草綱目） 小（本草綱目） 加（本草綱目） して（本草綱目） 煮（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 同

酒（本草綱目） に（本草綱目） 浸（本草綱目） して（本草綱目） 炒（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 又（本草綱目） 醋（本草綱目） 小（本草綱目） 加（本草綱目） して（本草綱目） 煮（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 同

又（本草綱目） 細（本草綱目） り（本草綱目） 大豆（本草綱目） の大（本草綱目） さ（本草綱目） に（本草綱目） 丸（本草綱目） ド（本草綱目） 二百粒（本草綱目） 湯（本草綱目） 醋（本草綱目） を（本草綱目） 煮（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 同

小兒（本草綱目） 腹痛（本草綱目） 吐（本草綱目） 下（本草綱目） 止（本草綱目） む

小兒（本草綱目） 腹痛（本草綱目） 吐（本草綱目） 下（本草綱目） 止（本草綱目） む

生薑（本草綱目） 三片（本草綱目） 批（本草綱目） 大（本草綱目） 灰（本草綱目） 一（本草綱目） れ（本草綱目） 炮（本草綱目） 白芍（本草綱目） 薬（本草綱目） 炒（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 同

又方（本草綱目） 桃仁（本草綱目） 五文（本草綱目） 草烏（本草綱目） 頭（本草綱目） 炒（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 同

又方（本草綱目） 桃仁（本草綱目） 五文（本草綱目） 草烏（本草綱目） 頭（本草綱目） 炒（本草綱目） して（本草綱目） 用（本草綱目） べし 同

鳥をさう白芷一々同く粉こくくみみぶぶ苗香みょうかうを酒さけり
 其酒さけく右の粉こ茶ちやをののててりり或わい葱しよん白はくを酒さけり
 小せう攪かきまぜ右の茶ちや飲の下くだしてして同どう
 又方また乳香にゅうかう没ぼつ茶ちや本ほん香かう二に分ぶんづづ水みづよくよく煎せん用もち也なり同どう
 又方また葱しよんの煮にけけくく腹はらををああひひ別べつ小せう葱しよん沃わく炒しやう攪かきまぜりり搗たぎりり
 考くわうらら一いっ株くわの上のうへにつにつけてけてりり同どう
 又方また益えき維い荀じゆん子のこを炒しやう炙しりり粉こくくてて又また分ぶんづづ乳香にゅうかうの煎せん湯たうををて
 用もち也なり同どう

腹脹

腹脹はらふくらみくくくくむむここ
 白砂糖はくさとうを酒さけくく煎せん一いっ匙しををりりに用もち也なり本草綱目
 又方また麦芽まがたを炒しやう香かうくく粉こくく一いっ分ぶんづづ白湯はくたうくく天てん台たい
 得効方

酒さけををああめめ姜きやう汁じゆををああづづきき二に三さん椀わんののててりり同どう
 牽ひ心しん腹脹はらふくらみくくくくむむここ
 青布せいふ一いっ寸すん四方しやう鹿角ろかく三分さんぶん乳にゅう髮はつ燒せん灰かい一いっ分ぶん二に分ぶん水みづ又また合あひしてして
 煎せんトト三さん合あひ中ちゆうにに煮につつろろ滓じををささりり煮にくくろろ不ふ香かうををくくりり同どう
 又方また薑きやう苳じゆう仁にんの根こんををささりり水みづよくよく煎せん炙しりり多たくく天てん台たいををりり同どう
 又方また生せい姜きやうをを炒しやう炭たん灰かいの中のちゆうに入いれ地ぢ一いっ綿めん一いっ寸すん肚どう門もんへへここここべべ一いっ冷れいれればば取とりり後ご脹はらふくらみくくくくむむここををりり同どう

急きゆうに腹脹はらふくらみくくくくくく上じやう氣き一いっ匙し所しよををりりここももななすすがが好こう也なり
 煎せん甲かうをを多たくく煮にくく一いっ分ぶんづづ水みづよくよく煎せん炙しりり多たくく天てん台たいををりり同どう
 湯たうくく用もちゆゆ食しやく後ご小せう水みづ一いっ分ぶんづづ入いれかかききままぜぜ飲の下くだしてして同どう
 酒さけを飲のむむ食しやくをを食くふふ腹はらををああづづきき一いっ分ぶんづづ水みづよくよく煎せん炙しりり同どう
 青皮せいひ四し分ぶん湯たうくく一いっ分ぶんづづ糖たうををささりり煮にくく一いっ分ぶんづづ水みづよくよく煎せん炙しりり同どう
 衛生易簡方

炒焦一粉一にて一合を茶ふ水天目一合半入一合を
煎し用ひ或ハ馬皮の粉をうりて沸湯に入れ振き用ひ
肘後備急方

小兒腹脹たふ小

胡粉と塩とをかきまぜるの如く程炒り腹にありてうり
又方父母の指の爪をうり焼粉ゆ乳頭につけ吹せよ
又方大麦麩を一合水一合用ゆ 同

脇痛

脇痛 脇痛 脇痛
又方美連酒小半一炒粉一川芎の煎湯
白湯又酒中ても用 治法彙
得効方

又方批仁九粒皮尖をきく紅花一撮ゆれゆりて煎す

あし散にうりて服す

根散十五粒一かきまぜ炒枝を粉にして二合づ
善湯一合用也 本草綱目

腹脹しむ

生姜二合半搗けり小炒粉一縮小つて痛不伏
又方大豆二合炒酒三合ゆれ煮て二合一煎す
布にほく痛不を敷く
又方地膚子を炒研て粉一合づ酒一合用也 同

腋臭

脇臭

常に胡粉をつけてり 本草綱目

又方生姜汁ととろり小塗るより 同

又方先水よく腋下をあらしひきき醋して腋下にぬるより 同

又方破つ銅屑を醋よくととの傳より 同

又方白礬を焼粉して物の袋に入あき常に腋下に張

うつる 千金方

又方煮くすの飯糰一を握りゆめ腋下にこすりて飯

をたしあえ食しこすり七月小一皮づ右のどくす

患へ金へ 肘後備急方

又方馬齒莧を梓爛し蜜よく塗りよりぬるより紙小つて其

上を七く塗り厚さ一寸より火く久焼取むて

をすり再び密しこすりけ先布よく貼臭の雨を拭

右の葉焼くより紙下にくすり 痛くはかきこ

よりすり巾よりぬれ膿をかきこすり垂てより 衛生易簡方

又方又月又日に百葉をとり陰干し焼灰よく汲その

水よく塗りよりぬるより紙下にくすり 痛くはかきこ

腋下にくすりぬるより乾かき度もかきこすり痛くはかきこ

りて臭さおそくなり其時自身れ小便して紙下を二三

度あらしひくより 十便良方

又方三年踏もく石灰をすり膿臭の雨へぬりてより 本草綱目

腰之部

腰痛

腰いしむ小

絲瓜の仁を炒り酒をいれ搗て汁を飲べ 渣を

痛雨し傳より 或は根を取やき粉よりぬるより二三日温め

腎效類方 卷之三十一

本草綱目

くろ酒よく用ゆ

又方大豆二合炒酒二合れ煮て二合に煮つちまきりし飲

飯一又ハ大豆一升を水一攪まぜらるべし炒炙一布

にはくこ痛み布を覆へし冷れば取かへく磨てゆり同

又方破紙紙粉一く二な温る酒ゆく飲てゆり同附後備急方

又方煮立て杖ゆて足ゆり脈をととり其寸を後て

くり杖のあらふは年れ數やと灸をとり同

又方北膚子少炒粉一く七なづく小苗香末煎湯

一く毎日又六度づ用ゆ同衛生易簡方

又方茵陳十な肉桂十な威靈仙二十な粉小一酒一く

煮をら糊一く移り大豆の大ふ九ト三十粒温める酒

一く用ゆ傳信尤易方



鼈甲を炙り粉一く一な酒一て用ゆ日に二度づ用く

本草綱目

又方鹿角三四十な火一く赤く燒酒を合れらる一張

一くおき其酒飲てゆり同

腎虚一く腰のここ難く判ぐここからるに

兼角屑を炒末一く一な煎後一温る酒を用ゆ

腎虚疼りて腰のここ一く

白芍子を搗餅のどくく一先腰の上に紙三層一を右の餅

を上におき又紙を一紙磨斗一く磨へ一く傳信尤易方

何の故も多く腰腿のこここ強く一くかここに

罌子を酒一く一日ゆて日一ゆ乾く炒粉

小一く二なづ温る酒一入かきまを飲る日一く三度用ゆ

本草綱目

又方相麻を炒香く一粉うく毎日合粉づ酒にて飲
る一或々蜜湯にて用もろ一ニ三升ほど用せバキ痛れなく
愈べし 傳信尤易方

腰 脚へかけのつるまに

猫の尿をやを灰く一唾くく一泥ぬりて
又方威靈仙を粉ゆて一盞温る酒にて一盞後小用也一毎日
用く後中少一写子てり 同

又方新しき相麻を炒香く一拌粉く一毎日温る酒にて
用ゆ或は生薑汁をく一蜜湯にて一盞用也一四升
用く痛愈る 同

腰 揉綿子を粉く一盞酒く用也

後より脊へかけのつるまに

肘後備急方

附子を粉く一酒少くと一泥痛ふ一貼く

本草綱目

又方杜仲皮を酒一漬く十日を酒を飲く

肘後備急方

又方茯苓子粒を去粉く一蜜湯にて一盞用也

湿 腰おろく冷く小便急ぐに

附子皮と附子粒を酒に煮つめ一盞用也

同附子の製法はの
不誤り

閃 挫く腰痛はく伸屈せざるに

橙子核を炒粉ゆく一盞酒に入加さず飲てり

本草綱目

又方蔚蘿を粉く一盞酒に入のそり

又方西瓜の青皮を陰干し粉ゆく一盞酒小塩少
いれ用也 同

又方神麴カネコをやく赤くし酒サケ漬ヅクし取トル出デしを酒サケを給ツクて

同

お矛コト或レバ悪血アクチありて腰ウシいいむむし

大英ダイエイ生シヨウ姜キヤウ豆トウの太サイとト福フクふふり各カク又マタななづづ炒チヤウここがが大ダイ茶チャ院エン

小水コスイ一イツ盞サン八ハチ分ブンめめししれれ茶チャ紙シひひくく一イツ枚ガイおおままてて曉カウししりり滓サをを去セ

ままけけののひひべべ一イツ枚ガイああけけななりりてて雞キのノ肝カンのノどドくくああるる物モノをを下ゲし

くく痛イタむむららしし得トク効キウ方ホウ

腰ウシ常ジョウ小コ冷レイくく塩シホかかららしし

草クサ草クサ干カン姜キヤウ各カク二ニ分ブン茯苓フクコ白ハク朮ジツ各カク六ロク分ブン四シ味ミ合カヘせせてて水スイ天テン目メ二ニ

煎ケンいいれれ一イツ盞サン中チュウにニ煎ケントトははめめ用ヨウ也ヤ

肘後備急方

手足テ之ノ部ブ

手足痛

手足の痛小

艾アイ二十ニジュウ文モン葱シヨウ一イツ握ウツ生シヨウ姜キヤウ十ジュウ又マタ同ドウドドくく搗ツマららしし布フ一イツツツ

燒酒シヤウキウをを沸ヒキしし中チュウにニ煎ケンしし痛イタ不フししかかええ蒸シヨウべべ一イツ

又方マタ車クルマ麻マ子シのノ葉エフをを痛イタ不フしし十四シヨウ又マタ重シヨウししききをを火ヒ煎ケンししてて煎ケンべべし

同ドウ煎ケンししくく碎サイいいしし徳トク茶チャ効キウななくく久クししくく治チせせぶぶ也ヤ

桑サウのノ枝エをを三サン合カヘししてて一イツ合カヘ炒チヤウ水スイ三サン合カヘししくく煎ケントトつつめめ多タくく飲インてて一イツ

本草綱目

煎ケン毒ドク小コくく足ソク腫シュいいししくくつつららしし

馬ウマ糞フンとトああししくく煎ケントト煎ケンききりり水スイ煎ケンてて一イツ

又方マタ苦ク参サンをを酒サケししくく煎ケントト煎ケンたたらら煎ケンををひひくくししてて一イツ

又方マタ牛ウシ肉ニク煎ケンたたらら煎ケンををひひくくししてて一イツ煎ケンたたらら煎ケンををひひくくししてて一イツ

濕シツ瘡ソウししくく碎サイいいししむむし

南ナン星セイ倉ソウ本ホン煎ケンてて生シヨウ姜キヤウ二ニ三サン片ヘいいれれ水スイ一イツ合カヘしし煎ケントト用ヨウ也ヤ

水スイのノ内ナイにニいいりりてて後ノチ煎ケンししくく足ソク腫シュいいししむむし

胡麻を炒りて中一搗つぐ一入入紙巻ぼくしん
汗出く痛愈なり 同
又方生の胡麻を研貼くすり 千金簡易方

脚氣

脚氣痛つくと歩ゆあづらり

毎粒塩と腿膝より足の甲まで塗りおくとあづらり
ゆして熱湯こそあづらり 本草綱目

又方樟本を水こそ煮どあづらり 同

又方山椒二三升布囊にいれ毎日脚こそ踏てり 同
衛生易簡方

又方赤小豆鯉魚と同く煮食してり

又方草烏根を搗酒の糟をいれつきたらり痛ふく貼てり 同

又方乾木瓜大なるを二つ根桐子又ふ呉茱萸沸湯こそ

七度洗て二ふ又ふあづらり細くすりこみこみこみ水茶碗一盞
半入は煮て紙べり 得効方

又方葱白根をあづらり煮どはふなり 傳信易簡方

脚氣腫つくと骨こすりこみこみこみ

白芷芥子等分粉少く生姜けりそと紙巻痛ふくはふなり

本草綱目

又方荆藿の根をすりこみ酒と醋とあづらり煮どはふなり 同
衛生易簡方

又方苧麻子の根を煮熱火へ挿るる紙巻てり 度々取かん

とほむべり 同

又方酒こそ大豆を煮そけを紙巻てり 或は水こそ煮用

ゆはるなり 肘後備急方

又方小豆を煮く食してり 同

又方松本の節を水にて煮て煎じ候し候し
脚氣心下衝のけりしむし
衛生易簡方

白礬二十多水四升経いれ煮て二又度沸して煎じ候し
肘後備急方

又方半夏生姜あして煎じ候し
脚氣後水より死なんともるに
衛生易簡方

呉茱萸湯し候しあし本瓜糖をすり切りかハ
粉ふし酒粕まで胡椒に丸ド百粒或は二百粒程づ酒
飲下し候し 同

足轉筋まるとに
轉筋

古く布紙脂の中に煮て煎じ候し
おくら冷れば酒とつむし
本草綱目

又方蜈蚣をやきかきし猪の脂少く煮て飲し候し 同

又方木瓜を酒と水と煮かきし煮て搗て痛ふし
布し候し冷れば酒とつむし 同

又方蓼葉二合半と水七合半し煮て合し煮つめ飲し候し 同

又方男子の轉筋し陰莖を炒べし女子は右方の乳を右
ひくばり 千金方

轉筋脈しつりしむし

吳茱萸を炒し二合酒又目小二盞いれ一盞煮て煎じ候し
用ゆ 本草綱目

又方釜拵を煮てこそげし一合酒小いれのし候し 同

又方雞の糞を水にて煮て夜に沸して飲し候し
霍乱し轉筋まるとに
衛生易簡方

木瓜を酒と水と煮て飲し候し
用ゆ 酒を飲し候し

用ゆ并ひ右の煎湯せんとう一ひと布ぬのを浸ひし足あしを湯ゆにひてゆり目
又方側柏葉こくがくを搗つききらり轉筋の赤あかを湯ゆにひてゆり并二側この
柏葉はくを水みづに煮て煎じ湯にひてゆり同

又方小蒜せうしん塩しほ等ら分ぶん搗つききらり獄の中なかにつけて湯にひてゆり灸を七壯しちさう
とゆり同

又方吳茱萸ごしゆい本瓜ほんか塩しほをひて湯にひてゆり衛生易
簡方

又方莢えいを水みづに煮て湯にひてゆり同
又方香薷かうじゆを水みづに煮て湯にひてゆり同

又方香薷を水みづに煮て湯にひてゆり同
又方香薷を水みづに煮て湯にひてゆり同

霍乱くわらん轉筋てんしん腹はら小引こびつり痛いたむ同

又方青布を煮にて轉筋の上うへに搽てゆり冷せば取かへ同

搽おす本草綱目

又方筋を煮にて轉筋の上うへに搽てゆり同

又方塩しほ紙し緞との内うちへここ塩の上うへに灸を七壯しちさうとゆり同

又方桑そうの葉はを水みづに煮て湯にひてゆり同

又方生薑せいじやう六む枚まいを搗つききらり二合とゆり同

并あ生薑せいじやうを水みづに煮て湯にひてゆり同

又の符支しの柳りゆうを水みづに煮て湯にひてゆり同

塩しほ一升いっしやう又また合あ水みづ一斗いっとうとゆり同

又右の塩湯を水みづに煮て湯にひてゆり同

鶴膝風

鶴き膝せき風ふうは足あしのひどのとゆり同

又方麻四よ五ご百ひゃく石せき大だい鍋なべに水多おほくいれて煮ゆり同

又方麻を水みづに煮て湯にひてゆり同

豆の大豆丸に毎日寝る浦小一粒づつ酒に用ゆ
又方苦竹を蒸焼し糊少く紙にぬりて押す竹は
乾くまで二三日蒸気分りしを布に包みて蒸すべし

脚弱

足弱くして力なき者

衛生易簡方

生栗を食して一或は風にかりし食して一
又方葱敷を炙りて粉し酒に用ゆ

又方蓼を多くやき灰し水にかけたまを水にて桑葉

城藜柳とあふて一

又方丹参を酒に漬し一酒とのまて一

又方商陸根を細く切し一豆と同く煮て一毎

日食して一

縮足雜症

足弱くして地を履くとわらひと奉を履く

威靈仙を粉し酒にぬりて一竹の筒にぬりて

其口を加へて寒ざらぬ丸を蒸す一取出し密に蒸す

丸に湯をいれ酒に用ゆ

足弱くして地を履くとわらひと奉を履く

生半反を粉し一水にぬりて一

又方白及を粉し一水にぬりて一

又方藕を蒸焼し一搗き一ぬりて一

又方蜂窠を粉し一乳香少許を醋にぬりて一

乾し醋にぬりて一

遠志を炙りし脚弱出来て水ぬれ

麩粉を水にぬりて一

を酒にぬりし脚の心強らる

脚根を泥とりのりつぎあつくぬりてよう同

脚根をゆきと地を少びこたう同

黄牛の屎塩をいれ炒れぬり同

くより同

夏湿にあたり脚指をゆきと同

九月小菖の根をとり搥同

脚を洗ふ同

鼻聚單方

脚の指をゆきとれ同

福茶水同

肘後備急方

脚根をゆきとれ同

本草綱目

又方桑の皮を嚼同

皮膚之部 附筋骨

皮のうら何となく同

何首烏を粉同

又方野狸骨を炙り粉同

熱牙皮のうら同

大豆を搗水同

又方塩一斗水同

熱牙皮膚痛同

芥子を研細同

風熱同

熱をゆきと皮膚痒同

又方凌骨花を粉こして一合酒一合用也 本草綱目

又方蜂房を炙ありて蜂窠と苦茶粉一合用也 同

風邪ハを引ひつり頂うりて骨こを動うさすことなりが記し

木瓜一合をすり肉の穢せとり出し去は茶十合乳考五厘

同く研細こして右の木瓜の肉へはめして切る蓋を絞へ

一盞かきませ右の茶をいれ煮熱し膏にいて飲てよ 衛生易簡方

熱そうこの骨をいじひし

鹿角を焼粉して一合酒一合用也 本草綱目

又方破ち骨を焼灰して生油一合をいじひして煎くし 同

又方玉瓜仁を焼く粉して一合酒一合用也日二夜二月一

又方白本伏酒一合を煎くて一合酒一合飲て 若酒を飲ぶ

者は少くて煎く用也湿くあり骨をいじひし 衛生易簡方

又方蒲黄八分附子二分粉して一合を冷水で用也骨れ節と

熱そうこの骨の節と雜して煎くて一合酒一合用也

生じらら蟹をとり搗きて一合酒一合をいれて煎くし 小のひびり

并して煎くて骨をいじひし 同

前陰の部

陰囊

陰囊をいじひし

馬鞭草を搗きて一合酒一合用也 本草綱目

又方荊芥穗をあり粉して一合酒一合用也 同

又方荏苒を搗きて一合酒一合用也 本草綱目

又方茴香皮胡椒分炒粉一匙一匙づつ酒を飲べ薬聚單
又方荜蓄根を搗碎して一匙一匙づつ酒を飲べ方
又方荜蓄根を搗碎して一匙一匙づつ酒を飲べ方

率に陰囊痛後より

大英を粉ゆ一筋一筋を塗り塗りして一匙一匙づつ酒を飲べ同
陰囊痛後より一筋一筋を塗り塗りして一匙一匙づつ酒を飲べ同

生椒を布に丸めて陰囊につけて一匙一匙づつ酒を飲べ同
生椒を布に丸めて陰囊につけて一匙一匙づつ酒を飲べ同

病後いも平熱せざる婦人と交りて病を承ふ一陰囊をこれと
と後の中へささるる同

竹の皮をゆして煮て一匙一匙づつ酒を飲べ衛生易簡方

小児陰囊後より一匙一匙づつ酒を飲べ本草綱目

又方天花粉一合甘草一分を厚紙に巻いて酒を飲べ同

又方雞翅菜六つ焼灰小湯を飲べ千金簡易方

又方蚯蚓の糞以甘草水とせぬりて衛生易簡方

率小陰囊いも一匙一匙づつ酒を飲べ肘後備急方

又方楮皮と小粉小一匙一匙づつ酒を飲べ同

又方楮皮と小粉小一匙一匙づつ酒を飲べ衛生易簡方

又方山椒七粒葱七つ水と煮わけて一匙一匙づつ酒を飲べ衛生易簡方

又方山椒七粒葱七つ水と煮わけて一匙一匙づつ酒を飲べ同

又方山椒七粒葱七つ水と煮わけて一匙一匙づつ酒を飲べ同

又方山椒と杏仁とを研ぶ一又方の中一塗る

陰囊をかへ附く

又方呉茱萸と少く煮下あつひてり

又方若參蛇床子白荖荊芥穂等分少く煮下あつひてり

陰莖

陰莖平腫

伏龍肝と鶏子れ白とてと死ねりてり

小兒陰莖

葱と山椒と灰少く煮下あつひてり

牡蛎の粉をかへ附りて付る

陰莖腫

荔枝の核と焼粉とて煮下あつひてり

又方馬齒莧と粉とて煮下あつひてり

又方蛇床子の粉と鶏子の黄とてと死ねりてり

又方伏龍肝と粉とて煮下あつひてり

又方吳茱萸と炒茴香松栞木分粉は酒糊と胡椒と硫石粉と

衛生易簡方

小兒陰莖赤くこれいふとて日晝啼きけ日殺を經て皮むけ

念て煮る前のとて腫いふ

を煮下あつひてり

本草綱目

陰莖これかゆ

桃仁を炒香くし粉して一斗つり二反酒して月の并し桃仁を搗さらし付く

本草綱目

陰莖に細かり物お来痒いとき或々燥かすとどろし

黄蘗と水と煮下あひして

肘後備急方

又方蜜をわけて

又方胡麻を嚼つあて

又方柘本日けれるの白皮を一握塩六分水合して煮一合

半小葱一つあけてあひして或々米粉をたのけして

わけて

十便良方

又方桑根白皮のけとどろあひして

同

又方馬の骨を焼灰し付へ小兒陰莖に瘡出来らるを

同

陰莖のりら細かり物出来らる

甘草とろと煮下して煮わけて

本草綱目

又方鼈甲を焼研細し鶏子白をてして

同

又方小螺蛸の殼半斤をてして

同

又方烏賊骨を粉し振付て

肘後備急方

又方淡螺殼を極少をてて燭の内して焼粉し先唾水して

をわけて後右の薬を付る

得効方

陰莖瘡を起さる

厚繭を煮く合とて

本草綱目

又方蜂房を焼灰し夜寝さる陰莖に付て

瘡

又方常に天門冬を少く煮て飲

千金簡易方

又方炭盆子を搗けを湯の用いれ

又方蛇林子試少く煮下陰莖をひ

千金方

陰莖より放りて血出

乳髪と平皮を焼灰本一斗を研ぎて一斗の酒を以て用ひ綱目

陰門

陰門いんもん

塩を布につく同

又方蛇牀子を布につく同

陰門いんもん

葉の苗をつき爛同

又方枸杞の根を炙同

陰門いんもん

根実を炙同

又方蛇仁を搗同

又方大黃十五兩二合半同

又方小拘攣同

取之同

又方烏絨骨同

づ用同

陰門いんもん

大蒜を炙同

陰門いんもん

蛇牀子同

又方蛇仁同

又方小刺同

又方蛇牀子同

又方同

又方同

陰門いんもん

本草綱目
暴證知要
良方
十便

赤仁皮をすり焼搯ららへ細くつとて法門へ一こもてり 本草綱目

法門の細り油を煮くかゆく或はいじり 目

桃糸を杵細くつとて法門へ一こもてり 目

又方枸杞の根を水で煮くわひく 同

又方硫黄を粉し傳く 肘後備急方

又方杏仁を搗く 同

又方蝦蟇をり 同

法門のうらみ 同

呉茱萸山椒を粉し 同

箱 本草綱目

又方硫黄を水で煮く 同

又方五味子を粉し 同

あま 同

陰挺 同

茄子の根 同

右の葉 同

又方鯽魚の 同

初り法門 同

茄病 同

石炭 同

又方鳳仙花 同

男女交合 同

又方五倍子 同

男子陰莖 同

とく 同

とく 同

とく 同

根吾を齧ららるる小ぬりてり

本草綱目

普救類方卷之二上終



